令和 6 年

決算審査特別委員会記録

令和 6 年 9 月 1 7 日

東伊豆町議会

決算審査特別委員会（第3日目）記録

令和6年9月17日（火）午前9時30分開会

出席委員（11名）

1番	山田豪彦君	2番	鈴木伸和君
3番	楠山節雄君	5番	笠井政明君
6番	稲葉義仁君	7番	栗原京子君
8番	西塚孝男君	10番	須佐衛君
12番	内山慎一君	13番	定居利子君
14番	山田直志君		

欠席委員（なし）

その他出席者（なし）

当局出席者（6名）

健康づくり課長	山田義則君	健康づくり課参事	柴田美保子君
健康づくり課長補佐兼国民保険係長	中村忍君	健康づくり課長補佐兼介護地域包括センター係	雲野信弘君
健康づくり課健康増進係長	前田宇之君	総務課主任	村木智裕君

議会事務局

議会事務局長	村木善幸君	書記	榊原大太君
--------	-------	----	-------

開会 午前 9時30分

○委員長（楠山節雄君） ただいまの出席委員は11名で、委員定数の半数に達しております。

よって、決算審査特別委員会は成立しましたので、開会をいたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

これより質疑を行います。

質疑の対象を一般会計、健康づくり課所管分とします。

質疑ありませんか。

（発言する人なし）

○3番（楠山節雄君） いいですか。

また14番議員から一般質問だなんて言ったら怒られそうですけれども、ちょっと確認をさせてください。

人間ドックの関係にも関わるんですけれども、成果表の94ページの後期高齢者の委託料、これは健康診査だとか、そういうものに、後期高齢者連合から委託を受けて実施をしているものだと思うんですけれども、人間ドックは、75歳になると、国民健康保険加入者については、人間ドックの助成が受けられなくなるということを初めて知ったんですけれども、後期高齢者連合の事務局のほうに聞いて、町では75歳を過ぎると、人間ドックの補助を行わないよということなんですけれども、後期高齢者連合に、では、今度はそちらのほうに移行するのかなと思って確認したら、後期高齢者のほうでは、特にそういうことは実施していないんですけれども、町に健康診査の関係で委託をしているもので、もしするとなると、そういうものが該当するのではないかというふうに話をいただいたんですけれども、町の考え方というのは、とにかく国民健康保険が終わると、人間ドックは助成というのの対象外という考え方は、後期高齢者のほうでやるという考え方はないのでしょうか。

ちょっと難しくなって、一般質問的で怒られそうですけれども、もし答えられれば。

（「ここでは無理ではないかな」の声あり）

○3番（楠山節雄君） ここでは無理だそうですので、一般質問でやれということだろうから。

（「確認だけしてもらっても」の声あり）

○3番（楠山節雄君） どうでしょう、なかなか課長さんだけの判断というのはいかないのかも分からないもので、ただ、考え方としてどうなんでしょう、人間ドック、国民健康保険

は75歳までは対象としているというのは、やはり健康で過ごしていただきたい、病気を早く発見して治療をするとかということで、そういう部分の考え方があれば、これは75歳過ぎたら、そういう考え方はいいよというわけにはいかないと思うので。

○副委員長（鈴木伸和君） 暫時休憩します。

休憩 午前 9時33分

再開 午前 9時34分

○副委員長（鈴木伸和君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） すみません、今の件につきましては、広域連合のほうに確認して、再度お答えしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○3番（楠山節雄君） ありがとうございます。申し訳ありません。

成果表の104ページですけれども、これ112ページと関わりが出てくる内容なんですけれども、各種のがん検診をやっているんですね。それで、ここの業務の目的とその成果の中には、受診率向上につながっているというふうに記載がされております。

それで、112ページを見ると、多分、がん検診事業の総括全体の、こういう子宮がんから前立腺までの総体的な数字だと思うんですけれども、令和5年度が186人ということで、前年から比べると、17人ぐらいの受診される方が減っているという数字になっているんですけれども、この辺の言葉と数字の整合性というのが、何か仕組みがあって、そういうふうになっているのかということを知りたいのがまず1点と、104ページのがん検診のところ、国が示す50%には達していないということなんですけれども、この辺、受診率向上に向けた取組が必要だよということなんですけれども、この辺はどういうふうに取り組んでいるのか、この2点をお願いします。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 健康づくり課参事です。

まず、104ページの各種がん検診事業の1から6までの検診の委託料のほうを載せさせていただいておりますが、その健診と、112ページのがん検診事業の整合性の点についてですが、112ページのがん検診事業につきましては、国保会計で胃がん検診の自己負担分を、国保に加入されている方については、2分の1を補助するという事業のみとなっておりますので、112ページのがん検診事業の186人というのは、胃がん検診を受けた方のうち、国民健康

保険の方の人数を計上させていただいております。

次に、104ページ、各種がん検診事業の受診率の向上につながっているということで書かせていただいておりますが、それぞれ検診ごとの受診率をここに上げていなくて、ちょっと分かりにくくて申し訳なかったんですけども、それぞれ検診の受診率を、また後で資料で提示させていただければと思いますが、それぞれの事業は少しずつですが、受診率が伸びておりまして、一番受診率が高いのが、乳がん検診で35%という状況で、国の示す50%には達していないという書き方をさせていただきました。

受診率向上に向けた体制整備についてですけれども、今、集団検診と個別検診の体制を整えておりまして、集団検診で受診されていない方については、再度はがきで、まだ検診を受けられていませんが、受けましょうというような勧奨のはがきを出させていただいたり、特定健診や健康診査と同時に受けられる体制などを、実施機関と調整をしまして、受診率の向上に努めているという内容であります。

以上です。

○3番（楠山節雄君） 一番高い受診率、乳がん、またこの辺、表の中で受診率の数字が入れ込めるようなスペースがあれば、それをちょっと入れていただきたいのと、一番高いので35%というと、国の基準からすると、ほかのがん検診も含めて、すごいやはり低くなっていると思うんですけども、対策も含めて、要因みたいなもの、なぜこれだけ低いのかという要因みたいなものがあつたら教えていただきたいのと、あと人間ドックについては、補助をしているんですけども、この辺は検査後の検査結果については、町のほうに提出をするというお願いはしているんですけども、しているんですけども、そうしたものを提出しなければ補助は出さないという形になっているのかどうか、そこをちょっと確認させてください。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） まず、受診率が伸びない要因としましては、今現在、母数となる対象者のほうが、年齢で何歳以上という、それぞれの検診の対象者の人数を計上させていただいておりますので、実際受けた方は、町の検診を受けたという実態のみになっておりますので、社会保険に加入されている方の実態や、自分で進んで受けている方の数字が計上されていないところも、町の受診率としては反映されていないのもあるのかなとは思っております。

また、受診体制についての工夫については、国や県の指針に沿いながら、受けやすい検診のほうを目指していきたいとは思っております。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） 人間ドックの健診結果の提出につき

ましてですけれども、一応提出してもらおうのが義務になっていますので、たまに提出が遅れている方には、再度電話等して、提出してもらおうような形で行っております。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） そのほか、質疑ありませんか。

○2番（鈴木伸和君） すみません、決算書のほうですけれども、不用額について2点お伺いします。

まず、104ページ、母子保健費のほうの委託料の74万730円の不用額についての説明と、続いて106ページ、保健・福祉センター費のほうの需用費79万8,220円、これらについての説明をお願いします。

○健康づくり課健康増進係長（前田宇之君） まず、104ページの委託料、74万730円の委託料の不用額ですけれども……

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前 9時44分

再開 午前 9時44分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課健康増進係長（前田宇之君） 委託料の不用額ですけれども、まず、産後ケア事業の委託料の残が23万円ほどありまして、あとほかにも、産婦健康診査の委託料及び乳児健康診査委託料等の残ということで、74万730円残っております。

106ページの需用費につきましては、保健・福祉センター維持管理事業につきましては、今、総務課のほうで管理を行っておりますので、こちらのほうではちょっと今、把握はしていない状態です。

○2番（鈴木伸和君） 失礼しました。では、総務課のほうということですね、分かりました。ありがとうございます。

○委員長（楠山節雄君） どうでしょう、そのほかありませんか。

○14番（山田直志君） 成果表の103ページの健康増進事業のところなんですけれども、参加人員等は書いてあるんですけれども、これは伸びているのかどうなのかというのが分かりにくい部分と、最後のところに、フレイル予防に重点を置いて、いろいろ調査をやったとい

うことがあるんですけども、これ実態的には、何人に調査をして、こういうデータができたのかというところの根拠を教えてください。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前 9時48分

再開 午前 9時49分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開いたします。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 健康増進事業の昨年度の状況について、令和4年と令和5年の比較について、すみません、ちょっと資料がなく、人数的なものについては述べるできないんですけども、それぞれの教室で実施しています自立体力測定で、歩行や身体調整や姿勢などの調査をした結果の平均値を見ますと、それぞれの教室、少しずつですけども、評価、実績としては、点数が上がっているというような報告を受けております。

また、成果説明書の103ページのその他の部分に書かれています、食品摂取の多様性得点（10点法）を活用するという調査についての、何人にやって、実際どうだったかという詳しい点については、後ほど資料として提出をさせていただけたらと思います。

以上です。

○14番（山田直志君） そうしますと、今の参事の説明でいうと、大体その上にある1、2、3、4、熱川の健康いきいきクラブから北川のフィットネスぐらいの、これを足すと85名ぐらい、大体その程度が対象ということだよね、大体その意味の説明は。分かりました。

次に、107ページの子育て世代包括支援センター事業のところなんですけれども、お金のやり取りはよく分かるんですが、一体、保護者や子供さん、どの程度の相談等々、どんな相談があって、どのぐらい利用したのかというところが、ここはちょっと出てこないんですけども、その辺はいかがですか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） この成果説明の様式では、確かに金額的な面の報告のみになっていますので、その補足としまして、人数の報告をさせていただきます。

保健センターに改修して、新しくASOBOという、日頃から子育て中のお母さん方に来ていただく相談場所だったり遊び場所を利用しているお子さんは、延べ289名の方に利用していただいております。

また、紙おむつの支給につきましても、定期便事業ということで、令和5年度中には、22人に対し123袋、配布のほうさせていただいております。

また、産後ケア事業につきましても、助産院でのデイケア、日帰り型と宿泊型の利用が、延べ2件の利用がありました。

その他、ASOBOの備品の購入などさせていただいた事業のほうを、107ページでは報告をさせていただいております。

以上です。

○14番（山田直志君） 289人、多いか少ないかはいずれにしても、ただ、そういう場所がなくて、今まで行き場がなかった人たちだろうということを考えると、それは意味があるのかなという部分と、産後ケアで、デイサービスなりショートステイということがありますけれども、それ以外、いろいろの相談であるではないですか。今だと、学習障害までいかないけれども、ADHD絡みのそういうことだとか、言葉の遅れだとか障害だとか、いろいろなそういう子育て上の相談というのは受け付けているのか。また、受け付けていた場合に、そこでの対応件数とかというのはわかりますか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 言葉や発達に関しての相談についてですけれども、保健センターでは、就園前のお子さんを主に対象とさせていただいております。療育教室という形で、年間、令和5年度の実施状況ですが、11回、延べ49人の親御さんに利用させていただいておりますが、その中での相談と、あと先ほど、延べ289組利用したというような、させていただきましたが、そちらの中にも、子育てセンターを利用して、定期的に発達が心配のお子さんの様子を見させていただいているという件数も含まれております。厳密に分けて発達のことだけを、ちょっと今、資料がなくて報告ができませんが、療育教室や子育て支援センターでの相談で対応させていただいております。

また、就園されたお子さんや就学されたお子さんについても、教育委員会の事業に保健師のほうも同行させていただいて、学校や園を回って、そこで乳幼児期の情報を提供したり、お母さんとの関係がついている場合は、保健センターの保健師が対応したりというような形で、係や課をまたいで、発達に、子育てに悩みを持っている方や心配されている方には、包括的に対応している状況となっております。

以上です。

○14番（山田直志君） そこを利用されている289人なりの中には、今みたいに、療育相談というふうに格式張ると、ちょっと敷居が高くて、えっという人も、何回か通ってくれた中

で保健師さんが見つけて、そういうことに対して、保護者の方や何かにも対応できるということが起きているとすれば、ここをつくった意味も、ある面ではあって、そういう人たちがやはりケアしていくために拠点となって動いているような状況は、何となく分かりました。

最後に、別な質問で、成果表にないんですけども、委員会でもやっている移動支援だとか支えあう東伊豆ということについて、いわゆる家事援助の問題だとか移動支援とかのやつというのは、一般会計のここに、実績や何かも出てきていないように思うんですけども、これは……

(「介護保険」の声あり)

○14番(山田直志君) 介護保険か。すみません、分かりました。

○委員長(楠山節雄君) よろしいですか、そのほか。

○10番(須佐 衛君) 決算書の97、98ページになりますが、健康増進計画の策定事業ということで、442万円という、これ、毎年ではないと思うんですけども、何年かに一度のかな、計画策定されているということなんですが、この事業を委託されていますが、その内容についてお聞きしたいと思います。

○健康づくり課健康増進係長(前田宇之君) 健康増進計画につきましては、町民が主体的に取り組める健康づくりを推進するための計画として策定しました。

令和6年度を初年度として、目標年度を令和15年度とする10か年計画で、前期計画として今回は定めさせていただき、令和6年度から令和10年度までの5年間として、取組の計画を行いました。

○10番(須佐 衛君) そうしますと、その計画、10か年計画の前半ということで、そうしますと、成果説明書の103ページ、健康増進事業という形でありますけれども、こういった事業というのは、その計画にのっとってなされているということでよろしいですかね。

○健康づくり課健康増進係長(前田宇之君) 一応、健康増進計画としまして、冊子及び、東伊豆町のホームページでも載せてありますけれども、常にできるだけ整合性を図りながら、事業のほうを進めていくようにはしております。

○10番(須佐 衛君) 分かりました。

続けてよろしいですか。

成果説明書の98ページになります。救急医療事業ということで、決算額818万円ありますけれども、その中で決算概要の中で、第2次救急医療運営費負担金ということでもあります。

この中で、大体患者さんの数の中で、2次救急、下田メディカルセンターとか伊豆東部、

今井浜とか、こういった形で挙げられている、1市5町の賀茂郡の病院に利用された方というのは、全体の患者さんの中でどれぐらいいるのかなと、もし数字が分かればお願いしたいんですけれども。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 2次救急の東伊豆町の搬送なんですけれども、令和5年1月から12月の件数をまとめた数となりますけれども、452人の患者搬送がありまして、1市5町では14.2%の割合を示しております。

以上です。

○10番（須佐 衛君） そうしますと、14.2%というと、かなり少ない数字だなというふうには、これだけ負担している割には数が少ない。逆に、伊東市民病院ですとか、そういったところ、伊東市民病院などを利用した数というのは分かりますか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 伊東市民を利用した件数については、今、資料としては持っていませんので、調べられるかちょっと分かりません。

○健康づくり課長（山田義則君） 第2次救急医療の運営というのは、どこもそうなんですけれども、医療の圏域というのがありまして、うちの場合ですと、賀茂地区の1市5町という形の中で運営という形で、それぞれ負担割合を決めて出し合って、その中でやっているというふうな状況ですので、救急関係、伊東市民病院等、搬送されるときがあるんですけれども、それはどちらかという、厚意的に受け付けてくれるという形で理解してもらえればと思います。

○10番（須佐 衛君） そうしますと、ちょっと聞き方を変えますけれども、下田メディカルセンター、それから伊豆東部、それから今井浜病院というのは、それぞれ何%ぐらいいるんですかね、利用された方は。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前10時03分

再開 午前10時05分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 下田メディカルの利用割合は3.5%です。康心会伊豆東部病院については42.5%となっております。今井浜は53.1%。西伊豆健育会病院が0.8%

です。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） どうでしょう、そのほかありませんか。

○6番（稲葉義仁君） 成果表、同じく103ページ、健康増進事業のところですけども、まずは、健康いきいきクラブからいろいろ、オリジナルフィットネスまでありますけれども、稲取のみ、ちょっと参加者が去年より減っているのかなと思ったんですけども、そこは何か特殊な要因みたいなものはありますか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 特殊な要因については、ちょっと報告を受けておらず、今、これでないかというのは、お返事することができないんですが、また、この健康増進事業につきましても、いろいろ内容についても、詳しく精査していきたいというふうには考えておりますので、減っている要因なども調べていきたいと思えます。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） 熱川が大体参加者は変わらず、稲取が……減っていない、増えているんだ。延べ人数ということは、参加者数が減っているという形ですよ。おおむね横ばいで、ちょっと今回でいうと、その他のところでの成果というか、全部並べて平均という形になっていますけれども、これ、いきいきクラブとかコアトレと、ほかのオリジナルフィットネス、全部をなめての平均値という考え方になっていますか。

というのは、コアトレだけ、少し運動の性格が違うかなというところがあるので、稲取、熱川を個別に見る必要があるかどうかというのは別として、北川も微妙なところで、年齢制限の部分でいうと、熱川、稲取とちょっと違うというところと、コアトレははっきりと、運動内容とかも多分違うと思うので、この辺は別々で評価する必要があるのかなと思ったんですけども、その辺は把握していらっしゃいますでしょうか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 今回、成果説明書の書き方が変わったということで、指摘されたとおり、全ての事業をまとめて、数字のほうを出させていただいています。

それぞれの教室ごとの成果についても出しておまして、まず、熱川のいきいきクラブにつきましても、項目によっては下がっている項目もありますが、平均年齢が75.8歳の中、平均体力年齢は72.8歳と、昨年と平均と同じ数値が出ております。

稲取のいきいきクラブにつきましても、参加者の平均年齢が76.3歳でしたが、平均体力年齢は72.6歳と、実年齢より若い状況ですけども、昨年と比べると、ちょっと悪い結果になっておまして、ほぼ横ばいなんですけども、身体調整の部分が昨年度をちょっと下がってしま

っているという実情です。

コアトレ&セルフケア教室につきましては、稲葉委員のおっしゃるとおり、平均年齢も71.2歳と少し若い方で、内容についても、スクワットや筋力トレーニングなどが入っておりますので、平均体力年齢も66歳ということで、昨年の平均より上回っております。歩行能力や手作業の部分が、昨年に比べ上がっている状況です。

北川は、オリジナルフィットネスも、この教室も30歳以上の方が対象ということで、平均なんですけど、平均年齢としては74.7歳で、平均体力年齢が69.3歳と、5歳ほど若い体力年齢が結果として出ておまして、歩行能力や身体調整、手作業、姿勢変換、全ての項目において、令和4年より上回る結果となっております。

また、来年度の成果説明の書き方についても、それぞれ分かるような書き方にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） ありがとうございます。

今のでいうと、稲取がちょっとぱっとしなかったといのは、もしかしたら、逆に言うと、この辺のいきいきクラブって、参加者が固定化する傾向があるという中で、14人が21人と増えているので、増えた分、弱っている人が増えたのかというか、そういうところってあるではないですか。その辺が多分、成果説明でいうと、言いたいところではないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いていいですか、同じところで。

あと、食事指導のところ、実人数13人、延べ人数17人とあります。ここも昨年と比べると、大体同じくらいの形ではあるんですけども、食品摂取の多様性の部分も28%から10%に、個別指導の中で減少しているということなんですけど、昨年度の成果説明書でいくと、あと、低栄養の疑いがあるBMIが20未満の対象者に対しては、重点的に個別指導して、体重の変化を見てみたりとか、それから、教室参加者で認知機能低下の疑いがある高齢者に、包括支援センターの職員が同行して、栄養指導や生活習慣病重症化予防に関する相談を行ったり、その他、いろいろ食事指導に絡んで活動しているよという成果の報告をいただいているんですけども、こういったあたりは今年はどうなんでしょうか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 今年度から、高齢者の保健と医療の一体的事業という新しい事業も始まっております、そちらにも低栄養の方の訪問事業なども取り入れさせていただいておりますが、教室で、もちろん気になっている低栄養や、参加者によっては日に

ちを忘れてしまったりとか、ちょっと教室での、前回と比べて少し気になる方については、例年どおり包括とやり取りをさせていただいて、対応のほうを検討しているというのは、引き続きやらせていただいております。

○6番（稲葉義仁君） ありがとうございます。

健康づくりは、お金の出元とか事業内容で、非常にややこしくなるので、どこの成果にどう入れていくかと、多分難しいと思うんですけども、先ほど参事からも話がありましたけれども、今回の成果説明については、ほかの課も含めて、成果説明の書き方の部分で、いろいろな意見がこちらからも出ております。

昨年までのが別に、これが完璧で戻せというわけではないですが、今言ったような、成果って何だということ、お金の部分はある意味決算書で分かって、分からない、増進でいうと参加人数、そしてそこから、皆さんの健康状態がどう変化していくかというところが、多分、一番皆さん気にされる成果としてのところだと思いますので、ちょっとその辺は次年度以降、総務ともいろいろ御相談をして、書き方は工夫していただければと思います。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。

副委員長いいですか。

最後に1点、ちょっと確認をしたいんですけども、決算書の104ページの自殺対策実態調査事業委託料、成果表の105ページに、その部分が記載されています。一番下を見ると、東伊豆町、賀茂圏域、静岡県、全国ということで、死亡率の数字が記載されて、町は大体、賀茂圏域と同様な数値で推移をしているのかな、静岡県は全国平均と大体同じような。このことを考えると、賀茂圏域、東伊豆を含めてが、やはりすごい高い数字になっているんですね。

この実態調査の委託は、どういうところに対して行ったのか。それによって、賀茂圏域が高いという状況が何か出てきたのかどうか、その辺、分かりましたら、お願いをしたいと思いますんですけども。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 自殺対策実態調査事業についてですけども、昨年度、東伊豆町生きる支援推進計画という自殺対策に関わる計画を見直ししまして、町内の18歳以上の方と、あと中学生、高校生にもアンケートを取らせていただいた委託料になるんですが、それを分析しまして、賀茂圏域、東伊豆町の自殺死亡率が高いことについての対策を立てた計画書を作成しております。

また、ホームページ等、見ていただければとは思いますが、分析した結果につきまして、今までは、高齢者の方の健康に対する不安であったり、そういった方の死亡が特徴的だったんですけれども、分析した結果、今年度特徴的なのが、勤労者、働き盛りの方の自殺がちょっと、振り返ってみると多かったという実態が分かりまして、それについては、生きる支援推進協議会というのを健康づくり課で立ち上げているんですけれども、商工会や警察や弁護士さんや司法書士さんなど、あらゆる専門家の方たちが入っている生きる支援推進協議会なんです、そちらの方にも実態のほうを報告させていただいて、働き盛りの方に対する支援、どんなものがあるかという検討したものを計画として載せているんですけれども、なかなか表面に出にくい状況なんです、表面に出てきたときには、今言った生きる支援推進協議会の中でのネットワークを活用して、誰一人取り残されることがないように相談機関につなげるというところに重点を置くのと、こういう相談事業、いろいろあるよというのを周知していこうということで、今現在、商工会さんをお願いして、対策を立てている最中、実行している最中です。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。

○6番（稲葉義仁君） 1点、念のために、決算書の106ページで、こども未来支援事業7万6,000円とありますが、これシンプルに、申請者というか対象者が、この分しかなかったという理解でよろしいんですね。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 今回は、1組の夫婦に対して1回ということなので、こういった金額になっています。

○6番（稲葉義仁君） 決算書でいくと、その下に子育て世代包括支援センター事業があります。

本年度は、保育士の謝礼が結構出ているんですけれども、前年度でいうと、このところが多分、助産師の謝礼という形になっていますけれども、ほか何か、センターの運営体制とかに何か変化があったのか。その辺、御説明いただけるとありがたいです。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） この保育士謝礼と助産師謝礼の関係ですけれども、助産師の謝礼についてですが、謝礼という形ではなくて、全般的な母子相談事業を委託する、ふじべ助産院さんに委託するというので、決算書でいいますと、106ページの12委託料の母子健康教育・相談事業の中の母子相談事業等委託料264万円という形で、委託という形で、今まで実際、子育て支援センターで相談していただいた分や、乳児訪問などを謝礼という形

で、令和4年度まではお支払いしていたんですけども、専門職の不足の部分もありまして、相談や訪問プラス24時間の電話相談も、ふじべ助産院に委託するという形で、委託料という形で計上させていただきました。

保育士さんに関しては、子育て支援センター内のASOBOを開設したことに伴う謝礼のほうとなっておりますので、事業が縮小したというわけではなく、むしろ充実、支払い方を変えたということになります。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。

○7番（栗原京子君） 成果説明書の98ページなんですけど、賀茂地域第2次医療圏域地域医療ネットワーク事業のところなんですけど、整備をしていくということで、今整備中なのか、もう運用が開始されているのか教えていただきたいのと、もし整備中であれば、いつ頃から運用開始と見ているのか。また、もう運用が開始されているのであれば、実際どのぐらいの利用実績があるのか、分かれば教えてください。

○健康づくり課長（山田義則君） まず、整備中か運用中かということなんですけれども、今現在運用中です。

このネットワーク事業、目的としては、救急搬送されて、2次救急で搬送されたときに、初期診断というか検査をしますよね。その検査データをそのまま使えるようにすること、それで、その所見の部分をそのまま引き継いで、3次救急の順天堂のほうにデータをしっかり受け継ぐということで、3次救急受け入れたときの検査とか、そういうやつをできるだけなくして、すぐ治療のほうに結びつけるというような形です。

それで、実際の運用なんですけれども、ここの運用があまりうまくいっていないのが実情で、というのは、順天堂大学のほうが、受入れ側が、いろいろシステムを動かすというか、運用の中で、先生があまり、ちょっと協力してくれないということで、この事業に関しましては、県のほうが初期投資をかなりしてくれてあるもので、県と市町とあと、特にメディカルは公的なところですので、まずメディカルと順天堂のほうを運用をしっかりとやるように、今ちょっと協議中です、県と市町とメディカルと。その運用をもって、ほかのところに活用するというような形で、今調整しています。そういうことが今現状です。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。どうでしょう、よろしいですかね。いいですか。

(発言する人なし)

○委員長(楠山節雄君) ほかに質疑がないようでしたら、以上で一般会計、健康づくり課所管分に対する質疑を終結いたします。

暫時休憩します。

それでは、40分まで休憩といたします。よろしく申し上げます。

休憩 午前10時29分

再開 午前10時40分

○委員長(楠山節雄君) 休憩を閉じ再開いたします。

次に、質疑の対象を国民健康保険特別会計とします。

質疑ありませんか。

○14番(山田直志君) 前のやつだと載っていたんですけども、恐らく国民健康保険の部分は、昭和23年生まれが後期高齢者へ移行したりということを要因として、被保険者というのは減少していくんだと思うので、それが全体の構成の一つの要因かなと思っているんですけども、その辺の実数の問題と、あと、では医療費自体が、そういう被保険者が減少することによって、会計もちょっと縮小してきている部分あるんですけども、1人当たりの医療費という形で見たときに、町の状況というのはどうなりますでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長(中村 忍君) 国保の被保険者数と世帯数ですけども、令和5年の世帯数なんですけれども、2,201世帯で、被保険者数が3,125人となっております。被保険者の国保への加入率につきましては27.8%となっております。

令和4年度につきましてはですけども、世帯数が2,293世帯で被保険者数が3,323人となっております。被保険者の加入率が29.3%となっております。被保険者数につきましては、198人減少しているような状況となっております。

1人当たりの費用額になりますけれども、令和4年度の1人当たりの費用額の合計なんですけれども、44万4,176円となっております。令和5年度の1人当たりの費用額につきましては、45万6,894円となっております。

以上です。

○14番(山田直志君) あと、今年も昭和24年生まれあたりが移行するわけだから、国保会

計上は、被保険者の減少というのが大幅に見込めるわけですがけれども、ただやはり、そうはいっても、医療費は1人当たりで見ると、少しずつ伸びている傾向というのはあって、いわゆる健康寿命等の延伸とか、やはり健康づくりの課題というのは、ここでも必要なのかなという感じがいたしました。

○委員長（楠山節雄君） どうでしょう、ほかに質疑はありませんか。どうでしょう。

○14番（山田直志君） 112ページの保健事業のところなんですけれども、このところそういう、いわゆる団塊の世代が後期高齢者へ移行していくというようなこともあって、実際、国保会計上は繰越金が多くて、この基金も3億円、4億円に迫るような状況になっているんですけれども、そういう状況を勘案したときに、例えば人間ドックの補助を拡大していくとか、がん検診や何かの一定の自己負担を解消するとか、一定の、基本的には保険料の大幅な値上げを圧縮するという目的に使いたいというようなことは聞いていますけれども、しかし、かなりの量、一時5,000万円前後という時期もあった中で、今こういう基金を持っている中で、もう少し保健事業を拡大するとかというようなお考えはないですか。

○健康づくり課長（山田義則君） そうですね、いろいろな健診関係の負担金に対して、補填するような形というのは十分考えられるもので、そこら辺は今後、そういう国保の委員会等でまた協議していきたいと思います。

○委員長（楠山節雄君） ほかにありませんか。

○6番（稲葉義仁君） 特定健康診査の未受診者に、フォローアップというか、AI技術を用いてというのをやっていたと思うんですけれども、令和5年度はどうですか。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） 令和5年度も、引き続き同じ業者に委託して、キャンサースキャンという業者に委託して実施しました。

○6番（稲葉義仁君） 行った結果の実績というか、その辺が、令和4年度と比べてどういう状況とか、そういう実績はございますか。

○委員長（楠山節雄君） 数字出ますか。

暫時休憩します。

休憩 午前10時48分

再開 午前10時49分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） すみません、受診を促すために、延べ人数4,617人にやはり3回勧奨の通知を行いまして、実人数1,796人、そのうち302人の方が受診をされました。

受診勧奨を行った方の効果につきましては、16.8%の方に効果が見られたということとなります。

○6番（稲葉義仁君） 昨年度の成果表が合っているとすると、28%から16%に効率が落ちているわけではないですか、これ、もともとこういうレスポンスというか、効果を上げるためにAIを入れて云々とやっている中で、ここが落ちているのであれば、落ちた原因でどこにあるのかなとか、興味のない人が最後、底のほうにたまっているの、これはこれでしょうがないのかなとか、その辺を多分考えて、つなげていかないといけないのかなと思うんですけども、いかがですか。

○健康づくり課参事（柴田美保子君） 稲葉委員の指摘された、おっしゃるとおりで、令和4年と令和5年と比較しますと、効果があまり見られなかったという中で、担当のほうも、この業者委託だけではなく、町独自のやり方を今年度は試したいということで、事業内容を見直して、未受診者対策のほうを実施しております。まだちょっと成果のほうは、まだ検診が9月もありますので、成果報告、途中経過の報告は今できませんけれども、全てを業者に委託するだけではなく、結果を踏まえて、次の年の対策などは立てておりますので、また来年度というか、報告ができるかと思えます。

以上です。

○委員長（楠山節雄君） よろしいですか。

そのほか質疑ありませんか。よろしいですかね。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） ないようでしたら、以上で国民健康保険特別会計に対する質疑を結びます。

次に、質疑の対象を後期高齢者医療特別会計といたします。

質疑ありませんか。

○14番（山田直志君） ここでは、実績として、113ページのところに被保険者数等も出てくるんですけども、これ、広域連合でやっているということですから、あれですけども、広域連合への納付金というのは、やはりこの被保険者数がベースになって、納付金というの

が決定されるというような理解でいいのかどうかというのと、この後期高齢者の部分での東伊豆町の医療費というのは、例えば県の平均とかそんなのと見て、どんな状況にありますか。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前10時54分

再開 午前10時56分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課長（山田義則君） 広域連合の納付金については、医療系と事務系と2系統ありまして、医療系については、市町案分ということで、広域連合のほうで決定されますけれども、ちょっと今、詳しいあれが分からないもので、後から資料として提出させていただきます。

もう一つ、事務費につきましては、高齢者割と人口割と均等割ということで算定されます。以上です。

○14番（山田直志君） あと医療費のやつを、もし分かれば。

○健康づくり課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） 1人当たりの費用額なんですけれども、令和5年度の1人当たりの費用額につきまして、県ですと、県の1人当たりの費用額は80万2,610円となっております。東伊豆町におきましては、78万6,198円となっております。県に比べると、ちょっと低いかなどは思うんですけれども。

○14番（山田直志君） もしかするとこれは、医療環境が悪いから低いというような部分もあるのかなという推察されるんですけれども、ただ後期高齢者の会計で見ると、国保や何かと違って、健康づくりとかいろいろな、そういう事業がないので、そうするとやはり、ここでの後期高齢者のこれからの医療費を削減するというのは、遑って一般会計だとか国保のところ、できるだけ取り組まない、やはり関連して、ここでの医療費の増大というのは、これから町にとっては大きなおもしになるなという印象を持ちました。

以上です。

（「副委員長」の声あり）

○3番（楠山節雄君） 成果表の113ページの関係です。いつもこの辺、聞く内容だと思うんですけれども、後期高齢者、自分なんかは年金から、特別徴収的な感じで徴収がされている

んですけれども、未納額が出るということは、普通徴収で納付をされている方が、そういう未納にいくケースがあると思うんですけれども、その辺の確認と、1ページで成果表をまとめろよということで、なかなかそこができなかった部分だと思うんですけれども、不納欠損103万6,200円の計上がされていますけれども、この辺はどういう理由で不納欠損を行ったのか、分かったら教えてください。

○健康づくり課課長補佐兼国民保険係長（中村 忍君） やはり未納になるのは、普通徴収の方となっております。それで、不納欠損につきましては、財産なし及び生活困窮による不納欠損ですけれども、財産なしが16人の57万3,700円、財産なしの中で、本人が死亡しており相続人等が不明なものというのが9人で26万9,900円、財産なしで生活保護受給者という方が2名で3万1,400円、生活困窮が3人で16万1,200円、合計で30人、124件、103万6,200円となっております。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。

○12番（内山慎一君） 113ページの加入者の推移とあるところに、令和5年と令和4年の比較があるわけけれども、これは人口が1万1,237人で、令和4年は1万1,352人に減っている。被保険者の場合は、2,984人と、逆に令和4年から95人減っていたけれども、そういう原因だとか、どういうふうに取り扱ったのかどうか、ちょっと教えてもらいたい。

○健康づくり課長（山田義則君） 先ほど、14番委員がちょっと触れていましたけれども、段階の世代が今ちょうど、国保から後期のほうに移行して、国保は加入者が減ると、後期はその分増えるということで、前年比較で95名、3.3%の増という形で、今後につきましては、しばらくこの増加傾向は続くものと予想しています。

以上です。

○12番（内山慎一君） 人口が減ったというのは、亡くなった人の分とかではないのかな。ちょっとよく分からないんだけど、人口が1万1,000人と減ってきて、それから逆に被保険者が増えているということの現象は、ちょっとつかみにくいんだけど。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時04分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） それでは、ないようでしたら、以上で後期高齢者医療特別会計に対する質疑を終結します。

次に、質疑の対象を介護保険特別会計といたします。

質疑ありませんか。

○2番（鈴木伸和君） 最初ですけれども、昨年の審査意見の中で、フレイル予防対策事業総合相談業務、地域包括センターを担当する職員は云々があつて、その中で、50歳超える職員が多いので、今後の事業の継続と発展・充実を図るために、職員の育成と事業に見合う職員の配置に努められたいという意見書を去年付けたんですけれども、それらにまず対応した内容は令和5年度にあったかどうか、説明をお願いします。

○健康づくり課長（山田義則君） 包括支援センターの職員は、そのまま年齢がどんどん上がっている中で、職員の高齢化の中で事業の引継ぎというか、そういうところを中心に考えて、あと不足している、今のそういう事業に対する取組なんですけれども、去年、前々から話しているんですけれども、介護の職員、事務のほうの職員1人がいなくなった関係で、包括支援センターの職員がそのバックアップに回ったと。そういうやつもあつて、介護認定の審査に係る書類整理等、それに関して会計年度任用職員のほうを雇って、ちょっと体制の維持を図ったということがあります。

将来的なものなんですけれども、まず包括支援につきましては、なれる職員というか、決まっています、主任ケアマネ、あと、保健士または看護師、あとは社会福祉士という構成要員が必要だということで、いろいろ採用に当たってやったんですけれども、なかなかこれは、また難しいということで、これについてはいろいろ、周りの資格を持っているところの機関等で、そういう職員に関して補充したいというようなことも言っているんですけれども、なかなか網に引っかからないというのが現状で、これはうちだけの市町の問題でもないことですので、ここの件は、引き続き鋭意努力しながら、何とかサービスを落とさないように、確保に努めてまいりたいと思います。

○2番（鈴木伸和君） ぜひとも非常に、見ても聞いていても、集中してくるところは大変そうなので、特にまた、今質問にあったとおり、後期高齢者が対象者がどんどん増えてくるとなると、そこがまた大変なんだろうなというのがあつて、ですから極力、前にも言った

かもしれませんけれども、役所で募集を考えるんでしょうけれども、よその市町辺りですと、中核を市町が雇って、あとは資格のある法人と業務委託契約を結んで、いろいろ地域包括センターがA地区、B地区、C地区というような形で、市民が利用しやすいような形になっている組織なんかもあるもので、その辺をよく、また検討してもらって、偏りが出ないように、職員が大変にならないように、違う人がまた応援するなんていうことがないように、いろいろな体制も早急に、ちょっとまた検討していったらいいのかなと思って聞きました。すみません、ありがとうございます。

続き、いいですか。

それで、引き続き、すみません。成果表の120ページの包括的支援事業というところなんですけれども、これ、去年でいうところの4ページぐらいにわたって、いろいろ事細かく、相談内容の分析ですとか、いろいろ書いてあったと思うんですけれども、今年度この1ページということで、非常に簡単で、各決算概要のところの事業を見ても、件数だとか数字的なものが何もなくて、あとは右側に総合計の決算額ということで、上段に出ている決算額と同じ数字が書いてあるんですが、これは何か意図があってこうしているのか、その辺ちょっとお伺いしたいんですけれども。

○健康づくり課長（山田義則君） これにつきましては、基本的に事業として、款項、ここを中心に1シートでやるような、総務課からの指示がありましたもので、前にも文教のほうの委員会でも、私、ちょっと言ったんですけれども、今回初めてなもので、書式がこういうシート方式で、枠内に収めなければならないとありましたので、そこら辺は、うちだけではなくて、総務課のほうに議会側から、こういう形でということを示していただければ、職員のほうはそれに従って記載しますので、今回はこういう形になって、いろいろ分かりづらいつつ、評価しにくいということはあるかと思うんですけれども、言っていただければ、そのような形で、判断・評価できるような形というか、そういう対応を図っていきますので、また御指示いただければと思います。

○2番（鈴木伸和君） ありがとうございます。

ほかの課でもそうなんですけれども、今回は成果書が新しい書き方ということで、非常に本課だけではなくて、いろいろな課でも、いろいろ数字的なものとか、成果が見えない部分があるので、それはそれとして、全体的なあれでさせていただきます。

今回の120ページの内容についても、私からすると7つの目があって、それぞれお金をつけて事業をやっている中で、例えば入院事業費だとか、そういうのもここに出ないし、

せっかくこれだけの事業をやって費用かけているので、成果として、やはり数字的なものとかあってもいいのかなというのを思いましたので、それはまた別の意見として上げさせてもらいますけれども、決算書の中でいいますと30ページのところの、目でいうと6目かな、認知症総合支援事業費というのがあるんですけども、件数でいくとゼロなんですよね。それが120ページの一番下になると、ニューサマーカフェとか、ボランティアでやっている内容がほぼほぼなんですけれども、この辺もそうやって見ていくと、決算額はゼロなんだけれども、これだけのことをやられているので、そういうところのやはり数字的なもの、回数とか参加人数、こういった効果があるよとしたほうが、成果的にいいのかなと思ったりしたんですけれども、その辺、2目の任意事業費の277万3,000円というのは。

権利擁護のところ、一緒に文章として書かれているのかと思うんですけども、ですから、2の決算概要のこの表だけ見ても、決算額は上に載っているもので、できたらこちらにのものがあつたほうが、成果として見やすいのかなと思っただけなんですけれども、いかがでしょう。

○健康づくり課長（山田義則君） 委員のおっしゃることは、ごもっともだと思いますので、そこら辺は対応していきたいと思います。

○委員長（楠山節雄君） どうでしょう、ほかにありませんか。

○2番（鈴木伸和君） もう一点、すみません。

去年の成果表を見ると、地域支援事業の中にフレイル予防対策事業というのがあって、今年これを一般会計のほうに移したという判断、理解をすればいいでしょうか。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時14分

再開 午前11時17分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） まず、フレイル予防の関係なんですけれども、先ほど話がありました一般会計のほうのフレイル予防と介護のほうのフレイル予防対策事業というのは、ちょっと予算的にも違ってしまっていて、フレイル予防対策事業、介護のほうでやっているのというのは、一般介護予防事業の中に予算と

して取ってあるんですけれども、内容的にはフレイルチェックをやっているような感じで、介護のほうで予防というのはやっています。

あと、決算がゼロ円とかというふうになっているというのは、それは事業としてはやっているんですけれども、講師謝礼、講師を呼んでやらなかったよということになるものですから、それで決算はゼロ円になっています。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。

○6番（稲葉義仁君） まず決算書のほうから、今もありましたけれども、28ページの介護ケアマネジメント事業費の中で、介護予防ケアマネジメント費が少し減額になっているようですけれども、その要因を教えてくださいというのが一つと、同様に、その下の一般介護予防事業で、講師謝礼が半分ぐらいになっていますけれども、この辺はどうなんでしょうという中で、あわせて、今も話がありましたけれども、介護予防事業の中では、去年の成果表で見ると、歩行改善教室、若がえり健康教室、それからライフプランセミナー、地域リハビリテーション活動支援事業、包括的、これはちょっとお金のくくりがややこしくなるので、あれなんですけれども、特にライフプランセミナーなんかは、去年とかおとし、結構、フレイルで大変だよということで、比較的丁寧に説明をいただいたんですけれども、これが令和5年の状況がどうだという部分を併せて教えてください。

○委員長（楠山節雄君） どうですか、答弁できますか。

暫時休憩します。

休憩 午前11時20分

再開 午前11時21分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） まず、包括的ケアマネジメント支援の減額についてですが、昨年度は、介護予防のプランの作成のほうの委託というのが138件だったんですけれども、今年度が127件というふうに、件数でも減っているものですから、決算的には減っているという形になります。

あと、ライフプランセミナーの関係ですけれども、昨年度が、延べ人数で参加が125人、令和5年度が89人という結果になっています。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） 了解です。介護予防ケアマネジメント費は、これでプランを作成する人数が減ったから原因だということ。

今のライフプランセミナーは、前回、8回で125人とありましたけれども、今回は回数が減った……

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 令和5年度は、開催数は7回になります。

○6番（稲葉義仁君） そうすると、参加者が減ったのは何か、お出かけした場所の問題なのか、その辺はどう評価していますか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 参加者が減った関係というのは、この参加者の方たちというのは、同じ人たちを対象にしていないものですから、75歳到達者にはがきを送りまして、参加してもらっているという状況があるものですから、何で減ったのかというのは、ちょっと原因が分からない状況です。

○6番（稲葉義仁君） 分からないんですけども、分からない中で、例えば特定診断だと、AIを使って上げていく努力をしようとか、いろいろやっている中で、この部分も分からないで終わらず、いろいろ知恵を絞っていただけるとという無理なお願いを言っておきますのと、続けていいですか、あと一点だけ。

あと、その下、決算書では総合相談・権利擁護事業費のところ、すみません、成果説明でいうと、先ほどお話に出たとおり、どこだっけ……どこかにいきましたけれども、この部分については、例えば総合相談事業、成果表では書いていないですけども、確かこの辺は、最近はシンプルな話より、複合的な問合せが増えているといった部分であったり、あとは、成年後見を含めた権利擁護関係の問合せというのが増えているというような話を、昨年度伺った記憶があります。

また、相談されてきた、令和4年でいうと、多分2,000件ぐらい問合せがあって、少しずつ減っているという中で、問合せの実人員も少しずつ減っているようなんですけども、令和5年の状況というのはいかがでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 令和4年度につきましては、2,135件ということで報告させていただいてまして、令和5年度につきましては2,054件になります。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） 権利擁護とか、その辺の相談内容の状況はいかがですか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 件数細かく、いろいろ分けてはあるんですが、権利擁護につきまして、令和4年度が233件になっていて、令和5年度が248件で15件増えている状況です。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） 問合せの実人員は。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 実人員は…
…令和4年度が476人、令和5年度が520人になっています。全体ですけれども。

○6番（稲葉義仁君） ということは、問合せ人数自体は、今回増えたという理解でいいんですか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 問合せの、結局1人が何回も連絡をよこして、相談してくるケースというのがあるものですから、実際の件数って、1人が4回、5回かけてきているケースもあれば、1回で済んでいるケースもあるということになるものですから、令和5年度につきましては、1人の相談の回数というのは減っている状況になるということになると思います。

○6番（稲葉義仁君） ちょっと休憩してもらっていいですか。

○委員長（楠山節雄君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時28分

再開 午前11時31分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 増えている要因としましては、件数でしか見えないんですけれども、介護保険福祉サービスの利用についての相談というのが、100件以上増えているような状況にはなりますので、その辺が要因ではないかと思います。

以上です。

○6番（稲葉義仁君） ありがとうございます。

○10番（須佐 衛君） 120ページですけれども、概要のところでは包括的・継続的ケアマネ

ジメント支援、ケアマネジャーの方の相談件数というのは、令和4年は決算のほうであったんですが、令和5年度については、件数というのは何回ぐらいあったんでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） ちょっと確認をしたいんですけども、ケアマネジャー等からの相談件数ということでよろしいですか。

○10番（須佐 衛君） そうですね。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 令和4年度が508件ありました。令和5年度につきましては279件になります。

以上です。

○10番（須佐 衛君） 同じところなんですけど、地域ケア会議というのが、令和4年度は15回ぐらい開催されていますけれども、令和5年度は、地域ケア会議というのは何回ぐらい。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 令和5年度につきましては、3回ですね。

○10番（須佐 衛君） 随分、令和4年度と比べると、回数が減っているようなんですけれども、相談件数も減っているのかな。ということで、随分減らしているというのは、何か理由があるんでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 昨年度の報告なんですけれども、地域ケア会議の個別ケースの件数を、多分上げていたと思うんですけども、ちょっとすみません、今年、自分が資料として作ったのが、開催の回数が3回ということになるものですから、件数としては何件なのか、個別のケースが何件あったのかというのが、ちょっと今分からないものですから、後で報告をさせていただきたいと思います。

○10番（須佐 衛君） 承知しました。

認知症総合支援事業ということで、認知症サポーター養成講座がありますけれども、これは、令和5年度については何回実施されて、参加者はどれぐらいいたんでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） 認知症サポーター養成講座につきましては、開催が4回で、参加の人数につきましては、ちょっと累計でしか出していないものですから、前回は2020年度、少々お待ちください……138人になります。

○10番（須佐 衛君） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（楠山節雄君） よろしいですか。そのほかありませんか。

○14番（山田直志君） 介護保険全体に関わるんですけど、高齢化率が47.1%と後期高齢者率

が28.2%というのは、県なんかの資料で言われているんですけども、今回の介護保険の問題で、この中で介護認定者の数と、あと要支援なのか、介護の1、2、3というのがどういうふうに変化しているかというのが分かるか、ここには今回は記載がないので、その辺と、あと、高齢者世帯の中での独居老人、高齢者のみ世帯なり高齢者独り世帯とか、この辺の世帯なり実数についてはお持ちでしょうか。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） まず、認定者の数につきましては、要支援1、要支援2ともに、前年度と比較しましてマイナス18人ということで、要支援は減っています。

要介護につきましては、増になっているんですが、要支援・要介護を足した人数でいきますと、令和4年度が794人、令和5年度につきましては認定者は787人ということで、7人の減になっている状況です。

独居の世帯の数というのは、今持ち合わせていないものですから、また後ほど御報告をさせていただきたいと思います。

○14番（山田直志君） ちょっと、細かく打合せがまたあったら教えてほしいんですけども、介護認定者が減っているということで、いわゆるその後の居宅介護サービス事業だとか施設介護サービス事業等々のところの給付に減額が出ているのは、単に介護の認定者の減によるというふうな見方でいいのか、それと、もし分かれば、7人減ったというのは事実なんだけども、それは例えば、令和5年度中に、当然亡くなった介護の人もいらっしゃるし、新たに介護認定を取られた人というのもいて、その結果としてマイナス7だと思うんだけど、その増減の状況が分かるかどうかということと、あと、後でお出しただけということですけども、独居の問題、これはやはり権利擁護事業とか、いろいろな地域包括ケアマネ事業、それぞれの形に、東伊豆町は独居のお年寄り、高齢者が多いということが、結構今後の事業展開に影響してくるので、ぜひ数字を把握されているものを教えていただきたいと思います。

○健康づくり課課長補佐兼介護係長兼地域包括支援センター係長（雲野信弘君） すみません、新規と死亡の数につきましては、今手元に資料ありませんので、後ほど報告させていただきたいと思います。

○委員長（楠山節雄君） そのほかありませんか。どうでしょう。よろしいですか。

（発言する人なし）

○委員長（楠山節雄君） ないようでしたら、以上で介護保険特別会計に対する質疑を終結し

ます。

暫時休憩いたします。

休憩 午前 11 時 40 分

再開 午前 11 時 41 分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開します。

これをもって、議案第42号から議案第49号に対する質疑を終結します。

これより、議案第42号 令和5年度東伊豆町一般会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第42号 令和5年度東伊豆町一般会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

（賛成者起立）

○委員長（楠山節雄君） 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

なお、附帯決議につきましては、別の議案として提出することになりますので、御承知ください。

どうでしょう、御意見。

暫時休憩します。

休憩 午前 11 時 42 分

再開 午前 11 時 59 分

○委員長（楠山節雄君） 休憩を閉じ再開をいたします。

意見につきましては、委員長、副委員長中心に取りまとめをしたいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 以上で、東伊豆町一般会計歳入歳出決算認定についてを終了します。

お昼になりましたけれども、続けていいですかね。

（「お願いします」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 次に、議案第43号 令和5年度東伊豆町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第43号 令和5年度東伊豆町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

（賛成者起立）

○委員長（楠山節雄君） 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

○14番（山田直志君） やはり国保からの問題でいうと、健康づくりの部分と健診と両方で取り組んでいかないと、後期高齢者や介護というふうに、年寄りになればどんどん悪くなっていくというのはあるわけで、そうすると、やはり早い段階からの健康づくり事業、または

受診・健診等の取組というのが非常に重要になっているのではないかなというふうに、各会計と連携してみると、国保が今のところ一番、そのポイントになるかなと思いますので、そういう意見をつけたらどうかと思います。

○委員長（楠山節雄君） 今、14番議員のほうから、そういう意見ありましたけれども、つけるということによろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 意見につきましては、委員長、副委員長を中心に取りまとめをしたいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 以上で、国民健康保険特別会計を終了します。

次に、議案第44号 令和5年度東伊豆町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第44号 令和5年度東伊豆町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

（賛成者起立）

○委員長（楠山節雄君） 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（楠山節雄君） それでは、ないということで、以上で後期高齢者医療特別会計を終了します。

次に、議案第45号 令和5年度東伊豆町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についての討

論に入ります。

討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第45号 令和5年度東伊豆町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

(賛成者起立)

○委員長(楠山節雄君) 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

○14番(山田直志君) この間、文教厚生常任委員会の話合いの中でも出てきた、東伊豆町の場合の介護保険というのは、高齢者独居、高齢者のみの方々が、数字としては出なかったんですけども、非常に多いわけですよ。そのことが、地域包括センターでの問題だとか権利擁護事業の大変さということにも結びついているので、こういう独居の高齢者への対応を今後やはり強めていただくようなことが、私は必要だと思うので、そういう視点を入れていただけるとありがたいかなと思います。

○委員長(楠山節雄君) どうでしょう、今、14番議員のほうから、重要なことだと思いますけれども、意見が出ましたけれども、意見を付するというところでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) それでは、意見につきましては、委員長、副委員長を中心に取りまとめをしたいと思いますが、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 以上で、介護保険特別会計を終了します。

次に、議案第46号 令和5年度東伊豆町稲取財産区特別会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第46号 令和5年度東伊豆町稲取財産区特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

(賛成者起立)

○委員長(楠山節雄君) 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) ないようでしたら、以上で、稲取財産区特別会計を終了します。

続きまして、議案第47号 令和5年度東伊豆町風力発電事業特別会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第47号 令和5年度東伊豆町風力発電事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

(賛成者起立)

○委員長(楠山節雄君) 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見が

ありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) ないようですので、以上で、風力発電事業特別会計を終了します。

続きまして、議案第48号 令和5年度下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより議案第48号 令和5年度下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

(賛成者起立)

○委員長(楠山節雄君) 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) なしと認めます。以上で、下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計を終了します。

次に、議案第49号 令和5年度東伊豆町水道事業会計歳入歳出決算認定についての討論に入ります。

討論ありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結します。

これより、議案第49号 令和5年度東伊豆町水道事業会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

この採決は起立によって行います。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は御起立願います。

(賛成者起立)

○委員長(楠山節雄君) 起立多数です。よって、本案は原案のとおり認定することに決しました。

当委員会に付託されました議案に対し、委員会のまとめとして、要望事項や希望、意見がありましたら、委員会の総意として、委員長報告書に意見を付したいと思います。要望事項や希望、意見はありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(楠山節雄君) ないということで、以上で、水道事業会計を終了いたします。

以上で、本委員会に付託された案件の審議は全て終了しました。

本日はこれにて延会します。

なお、委員長報告書につきましては、9月25日水曜日、議会改革特別委員会終了後に検討したいと思いますので、御出席のほうをよろしく願います。

どうも御苦労さまでした。

延会 午後 0時10分